

グッドトイレ推進運動とシンボルマークのデザイン募集の経過について

副会長 山本 耕平

1. これまでの経過

2015年の東洋大学で開催した第31回全国トイレシンポジウムは「世界に発信する日本のトイレ ～

2020年のその先へ」と題し、おもてなしの心のこもったトイレを「グッドトイレ」として推進することを提案し、有志のワーキングチームを立ち上げて活動を行ってきました。ワーキングでは「トイレのおもてなし」の意味を議論し、どのようなトイレが望ましいか、それを具体的に表現するためのチェックリスト、評価基準を設けることを検討してきました。

また今年4月～5月に、グッドトイレをアピールするためのシンボルマークを募集し、入選作を決定いたしました。

今後はグッドトイレの登録の仕組み、シンボルマークの活用方法などを検討して、具体的な運動をスタートさせていきたいと考えています。



2. グッドトイレについて

●グッドトイレの定義

清潔で快適なトイレであって、管理者の「おもてなしを感じることができる」トイレをグッドトイレと定義します。

特に、障がい者、高齢者、妊婦、乳幼児などの「トイレ弱者」に対して配慮されており、外国人にもわかりやすく使いやすいトイレであることが望まれます。

●グッドトイレの対象

グッドトイレ推進運動が対象とするトイレは、公共的な利用（不特定多数の利用）を目的として設置されたトイレで、原則として誰でも、いつでも（施設がオープンしている限り）、無料で利用できるトイレとします。（ただし、適切な維持管理のために最低の使用料を徴収したり、任意の「チップ」を支払ったりする形式のトイレは含むものとします。）

（例：自治体等が設置する公共トイレ、公共施設のトイレ、駅のトイレ、高速道路のSA、PAのトイレ、道の駅のトイレ、ショッピングモールや商業施設のトイレ、まちの駅のトイレ、社寺のトイレなど、設置主体・管理主体を問わず、来訪者が自由に利用できるトイレを対象とする。）

●自己評価とグッドトイレの登録

チェックリストにもとづいて、項目ごとに自己評価し、グッドトイレとして登録する仕組みを考えています。

自己評価の結果、グッドトイレの趣旨や望ましい要件を満たしていると判断されたら、グッドトイレとして登録し、グッドトイレのサイン（看板）を掲げることとします。登録された情報は、ウェブサイトで公開します。

3. グッドトイレのガイドライン（自己評価する際のチェック項目）

ガイドラインは、建物、設備、維持管理に関する明示的な基準を示すものではありません。あくまで、グッドトイレ推進運動の趣旨に合致する内容のトイレであるかどうかを、申請者（トイレの設置者または管理者）が自ら評価するためのチェックリストで、具体的な設備の内容や維持管理の体制・仕組みなどは、それぞれの判断に委ねています。

なお、バリアフリー法（高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律）や自治体の条例（福祉のまちづくり条例、バリアフリー条例など）に定めのある施設については、これらの法令が遵守されていることは最低限の条件です。

① 立地・アクセス

グッドトイレは利用者の利便を考えて、立地環境やアクセスが適切なことを要件とします。（人の動線から大きく外れた場所や利用者が不安を感じるような場所、わかりにくい場所等に立地していないことが要件となります。）

② 建物、室内全体の状況

トイレ全体のデザインを工夫し、明るく安心して使えるような雰囲気であることを要件とします。

屋外公共トイレの場合は、周辺環境に配慮したデザインであること、できるだけ死角をつくらないようにするなど設計において防犯上の配慮がなされていることが望まれます。

③ 多機能トイレ

法律や条例で設置が義務づけられたり、一定の大きさ以上のトイレでは、車椅子対応のブースの設置を要件とします。車椅子対応トイレは、車椅子利用者以外の障がい者、高齢者、子ども連れなどの「トイレ弱者」の利用を考慮した「多機能トイレ」であることが要件となります。

④ 洗面台

洗面台には鏡を設置し、化粧や身繕いの場として配慮されていることが望まれます。管理や補充が可能な施設では、ハンドドライヤーやペーパータオルなどの設置が望まれます。

⑤ ブース

複数のブースがある場合は、高齢者や外国人への対応のため、必ず洋式が設置されていなければなりません。また、一つ以上のブースにはベビーチェアの設置が望まれます。

温水洗浄便座は大規模施設、商業施設では原則として要件とします。公共トイレ、交通機関のトイレでは必ずしも要件ではありません、

和式便器には必ず手すりをつけることが必要です。

ブース内には、荷物置き、コート掛け（フック）、蓋付きのごみ箱（汚物入れ・サニタリーボックス）が設置されていること、トイレットペーパーが常備されていることが要件です。

以上の要件は、男女いずれのブースにも共通です。

⑥ 小便器

男子小便器の一つには、手すりがついていることが要件です。また便器前に荷物を置くスペースを設け、杖や傘を掛けるフックが設置してあることが望まれます。

小さい子どもの利用を考慮して、子供用の便器を別に設置するか、床置き式の小便器（床から便器リップ高さ 350mm 以下）を設置することが必要です。

⑦ 清掃・メンテナンス

常に清潔を保てる清掃体制があることが要件です。

設備は常に良好に維持管理され、故障や破損に対して迅速に補修する体制があることが必要です。

維持管理の指標として、使用する姿勢で見て、便器やブース、床等に汚れがないこと、洗面台付近で深呼吸できること、用を足す場所、姿勢で臭気を感じないことを要件とします。

いつも気持ちよく、清掃・メンテナンスに「おもてなし」の心や気配りが感じられることが望まれます。

⑧ 外国人の利用が多いトイレでは特に望ましいこと

①～⑦に加えて、可能であれば備えてほしいこととして、以下のようなことがあります。

温水洗浄便座は今や日本のトイレを象徴しています。維持管理が可能な施設では、設置されていることが望まれます。

外国人の利用に配慮して、器具の使い方などについて多言語表記があることが望まれます。おもてなしの心が伝わるような表示も望まれます。

ハンカチを持たない習慣の国や、ハンドドライヤーの設置を義務づけている国もあるので、ハンドドライヤーやペーパータオルの設置が望まれます。

4. グッドトイレシンボルマーク

今年4月から5月にかけて、トイレの入り口や標識などに掲示して「グッドトイレ」であることを表すシンボルマークを公募しました。

341 作品（応募者数 221 名）の応募があり、建築デザインが専門の上野義雪氏を選考委員長として最優秀賞一点、優秀賞二点、入選五点を選定しました。以下に作品と講評を掲載します。

【最優秀賞】 田中貴絵 様

シンプルなデザインであり、表現を控え目に抑えることにより、既設のトイレマークに並列設置がなされてもバランスのとれるマークであるといえます。また、「三ツ星」表示により、海外からの利用者にもグッドトイレの意味を理解しや



すいシンボルマークとして評価され、最優秀賞作品として選出されました。

【優秀賞】 齋藤哲哉 様

「GOOD」トイレの「G」と便器の形状をもとにデザインされたシンプルなマークであり、遠くからの視認性が期待できる作品として評価され、優秀賞に選出されました。



【優秀賞】 佐藤勝則 様

「GOOD」トイレの「G」を指で表現されたシンボルマークで、分かりやすい作品として優秀賞に選ばれました。



チェックリスト

項目		チェック
(1) 立地・アクセス		
	① 原則として誰でも、無料で、自由に使えるトイレである ※ロケーションや条件によって、チップ式、有料式の併設は可とします。	
	② 人通り、人の動線を考慮した立地である	
	③ サイン、表示を適切に配置し、利用者にわかりやすいよう配慮している	
(2) 建物、室内全体の状況		
	① 建物(トイレ空間)のデザインに配慮している	
	② 内部は明るく清潔さを感じさせる	
	③ 利用者が不安を感じることがない照明にしている	
	④ 外からの見通しや内部に死角をつくらない等、防犯に配慮して設計している	
(3) 多機能トイレ		
	① 車椅子で使える多機能トイレがある	
	② トイレまで車椅子でアプローチできる	
	③ 車椅子対応の設備がある(手すり、器具など)	
	④ 着替えや身繕いできるスペースがある	

	⑤ 乳幼児の利用を考慮してベビーベッドやおむつ交換台を設置している	
	⑥ オストメイト対応の設備があることが望ましい	
(4) 洗面台		
	① 洗面台の数は利用者数に対して適正である	
	② 化粧ができる鏡がある	
	③ 化粧をしやすい明るさを確保している	
	④ ハンドドライヤーの設置またはペーパータオル、ロールタオル等が常備されていることが望ましい	
(5) ブース		
	① 一つ以上のブースに洋式便器がある ※温水洗浄便座があることが望ましい	
	② 和式ブースには(1つ以上のブースに)手すりがついている	
	③ 荷物置き、フックが適切に設置してある	
	④ すべてのブースにごみ箱(サニタリーボックス)を設置している(男性用のブースにも設置されていることが望ましい)	
	⑤ トイレtpーパーが常備されている	
	⑥ 一つ以上のブースにベビーチェアがある	
(6) 小便器		
	① 一つ以上の便器には手すりがついている	
	② 荷物置きまたは荷物を置くスペースがある	
	③ 子供用小便器があるか、子どもが使いやすい高さの便器(リップ高さ350mm以下)がある	
(7) 清掃・メンテナンス		
	① 常に清潔を保てるだけの清掃体制がある	
	② 使用する姿勢で見て、便器、ブース、床に汚れがない、落書きがない	
	③ 設備の故障、破損はなく常に管理している	
	④ 故障、破損などに対する連絡先が表示してある	
	⑤ 洗面台付近で深呼吸できる	
	⑥ 用を足す場所で臭気を感じない	
	⑦ 「おもてなし」の心を込めてメンテナンスしている	
(8) 外国人の利用が多いトイレでは特に望ましいこと		
	① 温水洗浄便座があることが望ましい	
	② 器具の使用方法などについて、多言語表記があることが望ましい	
	③ ハンカチを持たない習慣の人のために、ハンドドライヤーやペーパータオルの設置が望ましい	

上記のチェックリストについて、ご会員の皆様からのご意見を募集します。追加、修正すべき項目、提案がありましたら、事務局までお寄せ下さい。

第33回全国トイレシンポジウム企画 プログラム

1. テーマ 誰もが楽しく歩ける「まちなかトイレ」を考える

ートイレ先進都市横浜からの発信ー

2. 趣旨

まちの中のそれぞれのトイレは大きく進歩してきましたが、まちづくりという観点からのトイレの位置付けは、まだまだ課題が少なくありません。特にバリアフリー、ユニバーサルデザインの観点から、障がい者、高齢者、乳幼児連れの人たちが自由に行動するためには、公共トイレ、商業施設のトイレ、駅のトイレ、コンビニのトイレなど、「まちなかトイレ」のネットワーク化や多機能トイレの効果的な配置、わかりやすい誘導サイン計画など、トイレをまちづくりの一環として位置付けていくことが必要です。昨年の第32回トイレシンポジウムでは「公共空間の多様な利用と整備におけるトイレのあり方」をパブリックデザインという観点から採り上げましたが、今回はトイレとまちづくりをより深く関係付け、まちの中のトイレを「まちなかトイレ」としてとらえ、誰でも楽しく歩けるトイレのあり方を広く考察していきたいと思えます。

開催地である横浜は、明治期公衆トイレの発祥の地です。また1980年代から全国でいち早く「公共トイレ革命」に取り組み、まちづくりと連動しながら繁華街や駅前にデザイン性の高い公共トイレを設置し、障がい者、高齢者、乳幼児の利用に配慮した多機能トイレを初めて公共トイレに設けるなど、全国の自治体を先導してきました。また市民のまちづくりに関する活動も活発です。こうした経験に学びながら、まちなかトイレのあり方を議論したいと思えます。

3. 開催概要

○期日 平成29年11月18日(土) 9:30~17:30

11月10日は日本トイレ協会が定めた「トイレの日」、11月19日はユニセフが定めた「世界トイレの日」です

○会場 横浜市旭公会堂 横浜市旭区鶴ヶ峰一丁目4-12 旭区総合庁舎4階

相鉄線鶴ヶ峰駅から徒歩7分(横浜駅から鶴ヶ峰駅まで約15分)

○参加費 無料(概要集は実費販売 2000円程度)

○主催 一般社団法人日本トイレ協会

○後援

経済産業省、国土交通省観光庁、横浜市

日本科学未来館 (一社)日本建築学会、(公社)日本建築家協会、(一社)日本医療福祉設備協会、都市環境デザイン会議、(一社)日本医療福祉建築協会、(公社)国際観光施設協会、(一財)自然公園財団、(一社)日本福祉のまちづくり学会、全国管工事業協同組合連合会、NPO給排水設備研究会、(一社)日本能率協会、NPO法人地域交流センター、(一社)廃棄物資源循環学会、NPO法人横浜プランナーズネットワーク、NPO法人横浜ジェントルタウン倶楽部、NPO法人横浜シティガイド協会

○協賛

TOTO株式会社、株式会社LIXIL、(一社)日本レストルーム工業会、日野興業株式会社、株式会社総合サービス、日本カルミック株式会社、株式会社アメニティ、無臭元工業株式会社、株式会社アルボース、株式会社井戸屋湘南ステーションビル株式会社、櫻木神社、株式会社シミズオクト、YAMATO-NB株式会社、コマニー株式会社
アメニティ

事務局

【第33回全国トイレシンポジウム実行委員会運営事務局】

実行委員長 山本耕平（一般社団法人日本トイレ協会副会長）

（株）ダイナックス都市環境研究所内

〒105-0003 東京都港区西新橋 2-11-5TKK 西新橋ビル

Tel.03-3580-8221 mail:sympo@toilet-kyoukai.jp（担当 石垣）

4. プログラム

【午前の部】

9:30 開会

開会挨拶：日本トイレ協会／横浜市

9:40-10:30

●基調講演 「横浜のまちづくりとトイレ」

講師：高橋志保彦氏（建築家、都市デザイナー）

新潟県生まれ。早稲田大学第一理工学部建築学科卒業、ハーバード大学大学院修士課程修了。竹中工務店等を経て、事務所設立。1988年から神奈川大学教授、2006年名誉教授。（一社）日本トイレ協会会長。

横浜馬車道計画、横浜開港広場のデザイン・設計で1986年「横浜まちなみ景観賞」、2004年「横浜市・人・まち・デザイン賞」、2006年には横浜の都市デザイン業績に対して「横浜文化賞」を受賞

10:30-11:10

●特別講演 「世界のトイレの最新事情」

講師：Mr. Jack Sim（World Toilet Organization (WTO) 世界トイレ機構設立者）

「世界トイレ機構」（World Toilet Organization）は、2001年に設立。シンガポールに拠点を置く非営利団体。「世界の公衆衛生の充実」を目的に、世界トイレサミットなどの活動を行っている。

※スピーチは英語、逐次通訳

11:10-11:40

●「グッドトイレ選奨」応募作品のプレゼンテーション

進行 村上八千世氏（アクトウェア研究所）

11:40-12:00

●特別プログラム 子どもたちへ、トイレのメッセージソング『あしたトイレに行こう』

唄：サトミツ&ザ・トイレッツ

日本トイレ協会会員のお笑い芸人佐藤満春（どきどきキャンプ）が立ち上げた世界初のトイレバンド！「小学生男子が学校でウンチに行けない」問題に明るく向き合った1stシングル『あしたトイレに行こう』で2016年11月10日（トイレの日）についてCDデビュー！同日レコ初ライブを行い、テレビ、ラジオ、新聞など各媒体で取り上げられ、話題となった。

12:00-13:00 昼食・休憩

【午後の部】

13:00-15:00

●セッション1：トイレ利用者からの「まちなかトイレ」の現状と課題

コーディネーター：川内美彦氏（東洋大学人間環境デザイン学科教授）

- ①バリアフリーの視点から 岡村道夫氏（NPO法人横濱ジェントルタウン倶楽部）
- ②インバウンド観光客とトイレ
- ③LGBTにやさしいトイレとは 三橋順子氏（性社会・文化史研究者）
- ④子連れ外出とまちなかトイレ 今井幸子氏（つるみ“ままつぶ”を作る会）

15:00-15:20 休憩

15:20-17:20

●セッション2：設置・管理者からの「まちなかトイレ」の現状と課題

コーディネーター：小林純子氏（建築家、日本トイレ協会副会長）

- ② ちなかトイレ等の環境整備に向けて 小野田 吉純氏（横浜市建築局建築指導部担当部長）
- ②パブリックトイレ構想と公民連携を軸とした新たな公共トイレ概念
城山 佳胤氏（豊島区政策経営部長）
- ③商業施設のトイレ 塩崎 匠氏（榊相鉄ビルマネジメント）
- ④コンビニのトイレ
- ⑤鉄道駅のトイレ 相模鉄道

17:20-17:30

●総括、閉会

【交流懇親会】

17:40-19:30 ※グッドトイレ選奨の入選作発表

5. 関連イベント

(1) グッドトイレ選奨

(2) 展示（公民館ロビーにて、市民向けの展示）

- ・グッドトイレ選奨応募作品パネル
- ・携帯トイレの備蓄など最近のトイレ問題についての啓発展示（日本トイレ協会）
- ・企業展示（協賛企業）
- ・日本最初の公衆便所模型（大田区立郷土博物館蔵、予定）

参考

シンポジウム参加者予定 300人（前回約200人）

交流会参加予定 70人（前回70人）

横浜市旭公会堂へのアクセス：横浜市旭区鶴ヶ峰一丁目4-12

相鉄線鶴ヶ峰駅から徒歩7分

（横浜駅から鶴ヶ峰駅まで約15分）



乳幼児連れ対応トイレについて

コマニー株式会社 製品開発部 研究開発課 主査 高橋 未樹子

近年、多機能トイレへの利用集中により、多機能トイレの機能をトイレ全体に分散することが推奨されている。2017年3月に改定されたバリアフリー法設計標準においても、従来は多機能トイレに設置されることが多かった乳幼児対応設備は、多機能トイレではなく、「乳幼児連れ対応トイレ」として別に設置することも施設によっては推奨している。では、乳幼児連れ対応トイレにはどのような空間・機能が求められるのだろうか。

①扉の開口幅

2010年と少し古い資料だが、「東大流・育児便利グッズ」による国内・海外含めたベビーカー主要24製品の寸法比較表を見ると、横幅はどれも700mm以下である。特に普及している国内メーカーのものにおいては600mm以下のものが多く（双子用などは除く）、乳幼児連れ対応トイレの扉の開口幅は一般的に650mm以上にすることが求められている。

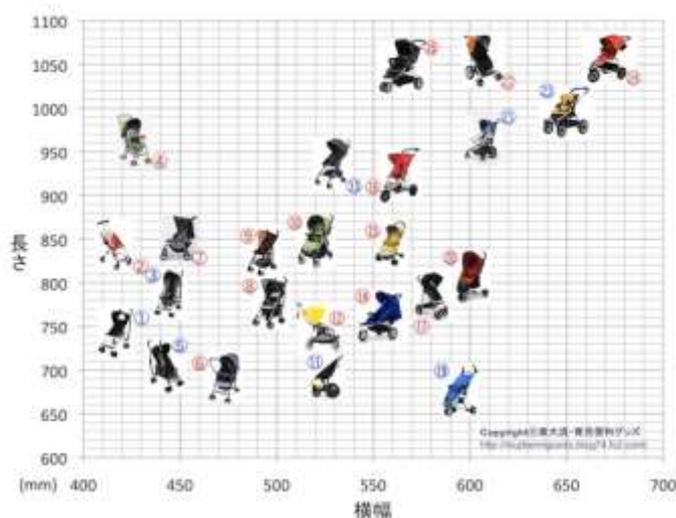


図1. ベビーカーのサイズ

②必要な設備について

“乳幼児連れ”と聞いて思い浮かべるのはどのような親子だろうか。パツと思ひ浮かぶのは図2のようにベビーカーに子どもを乗せた状態ではないだろうか。しかし、子どもの成長や行く場所、その時の状況によって、図3のようにベビーカーから子どもが下りて一緒に歩いたり（その場合はベビーカーは荷物置きになっていることも多い）、図4のようにベビーカーを使わずに抱っこしていたりすることもある。



図2. ベビーカー



図3. ベビーカー + 手つなぎ



図4. 抱っこ

このように様々な乳幼児連れが使いやすいようにと考えると、乳幼児連れ対応トイレには必ず、①おむつ交換台(図5)、②チェンジングボード(着替え台)(図6)、③ベビーキープ(図7)の3点ともが必要になる。その理由を、実際に乳幼児連れに協力してもらったトイレの利用実態調査から説明する。図8に、ベビーカーに子ども(9か月)を座らせている親子、ベビーカーを持っているが子ども(1歳6か月)を下ろしている親子、子ども(1歳2か月)を抱っこしている親子の3組のトイレ動作を示す。



図5. おむつ交換台

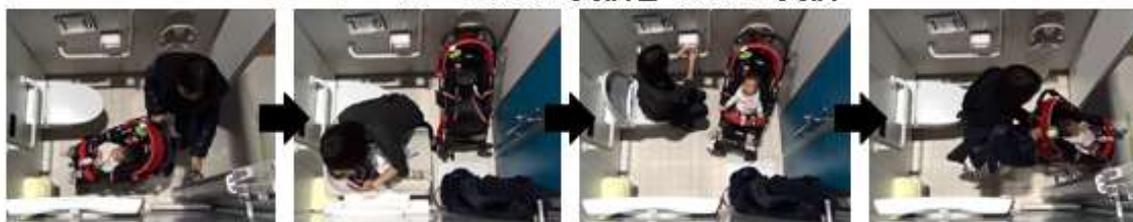


図6. チェンジングボード



図7. ベビーチェア

ベビーカー：おむつ交換台でおむつ交換



ベビーカー+手つなぎ：チェンジングボードでおむつ交換、ベビーキープに座らせる



抱っこ：おむつ交換台でおむつ交換、ベビーキープに座らせる



図8. 乳幼児連れのトイレ内動作

ベビーカー親子の場合、おむつ交換台でおむつを交換した後、親の排泄時には子どもをベビーカーに座らせた。一方、ベビーカーからおろして手をつないでいる場合は、子どもが歩けるのでおむつ交換はチェンジングボードで行った。そして、ベビーカーが荷物置きになっていたため親の排泄時には子どもをベビーキープに座せた。抱っこをしている親子は、おむつ交換台でおむつを交換したあと、親の排泄時にはベビーカーがない

そのためベビーキープに子どもを座らせた。このように3組の親子からみても、おむつ交換台だけ使う親子もいれば、チェンジングボードを使う人、ベビーキープを使う人、子どもの月齢やその時の状況によって様々である。時々おむつ交換台しかないトイレも見かけるが、それでは親の排泄時に子どもの安全を守ることはできない。おむつ交換台に子どもを寝かせたまま目や手を放す行為は、おむつ交換台からの落下を招くこともあり、非常に危険である。実際に、親が目を離れたすきに子どもがおむつ交換台から落ちたという事故の報告も過去にはある。そのため、子どもの安全を守るには、おむつ交換台、チェンジングボード、ベビーキープの3点ともを設置することを強くお勧めする。

③必要なブースサイズ

ベビーカーをたたまずにおむつ交換台を広げておむつ交換をするには、ブース内々寸法として最低1400mm×1600mmの寸法が必要である(図9)。これより狭くなると、親の体格によってはおむつ交換の際に腰をぶついたり、場合によってはベビーカーをブース内で畳まないといけなくなることもある。

1400mm×1600mmのブースサイズがあれば、コンパクトな車いすに乗っている人など場合によっては車いすも利用可能である。最初に扉の開口幅は650mm以上としたが、乳幼児連れ、車いす利用者ともに使うことを考えると、開口は800mmをお勧めしたい。ただし間口が1400mm、1600mmでは開口800mmの引戸は間口が狭くて設置できないので、2連引戸や折戸にするなど工夫が求められる。それと同時に、おむつ交換台が使用後も畳まずに出しっぱなしだと車いす利用者が使えないので、使用後はおむつ交換台を畳むなど利用者によるマナーも重要である。

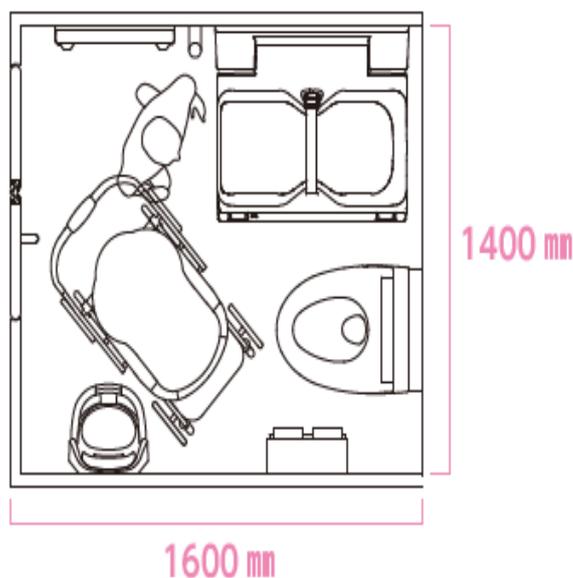


図9. ブースサイズ

その他、子どもを連れている場合はミルクやおむつ、おもちゃやお菓子など荷物をたくさん持ち歩かなければいけない。そして、トイレブース内ではカバンからおむつを取り出す作業が必要なため、手荷物を取り出しやすい場所にカバンを置けることも重要である。さらに子どもを兄弟で複数人連れていることも考えられるので、乳幼児連れ対応トイレには、親や子どもの使いやすさに加え、安全であることも重要である。

最後に、今回の報告は2012年～2014年にかけて多機能トイレの機能分散に関する検討WG(国土交通省国土技術政策総合研究所、国立研究開発法人 建築研究所、コマニー(株)、コンビウィズ(株)、ナカ工業(株)、日進医療器(株)、日本女子大、(株)人間環境デザイン研究所、(株)LIXILで検討した内容をまとめたものである。



海老名SA（下り線）におけるトイレ混雑緩和対策

中日本高速道路株式会社 東京支社 横浜保全・サービスセンター 岩佐 育恵

1. はじめに

海老名SA（下り線）は、日本の大動脈東名高速道路の玄関口であり、日本一の来客数をほこるSAである。多くの大型バスが立ち寄り、女性のお客様の利用が多いことが一つの特徴である。

2. 問題点

海老名SA（下り線）に多くの大型バスが立ち寄った際には、一時的にトイレが混雑する状況であり、「お客様の声」にも個室トイレの増設要望意見が寄せられていた（表1）。また、分岐型の平面プランになっており、奥の個室トイレが見えづらく、奥の個室トイレが空いているにもかかわらず、待ち行列ができてしまう状況であった（図1）。

表1：海老名SA（下り線）における個室トイレ増設要望意

受付日時	お問合せ内容
2011年12月1日	トイレの数を増やして欲しい。喫煙所が少ない。
2012年4月6日	トイレの数が少ない。
2012年8月17日	トイレをデカクする。
2012年9月10日	トイレの個室の数が少ない。（男）遠くのトイレまで歩いた。
2013年1月7日	年をとっているためトイレが近くトイレが多くある方がよい。バス団体があると、トイレが満員で困るときがある。
2013年11月18日	トイレも清潔でしたが、数が少なくないですかね。
2015年1月7日	トイレの場所を増やしてほしいです。

案内表示板（分岐点A）



満空ランプ（個室トイレ）



奥の見通しの悪さ



対策実施（2015年8月5日）前半年間の個室トイレの利用ログ※を収集し、利用率を分析した。

※利用ログは、個室トイレ扉に設置されたマグネットスイッチによってカウントした。



見通しの悪い奥列の個室トイレの利用率が低い



図1：対策前における個室トイレの利用率

3. 目的

以上より、問題点を解決することで、海老名SA（下り線）を利用するお客様がスムーズに使用できるトイレ空間を創造することを目的とする。

4. 対策実施内容

以上の背景より、大型車駐車マス側である厚木側女性トイレを選定し、以下の対策を実施した。

4-1. 案内表示板の改造

個室トイレに設置されている満空ランプは赤と青で表示しているにもかかわらず、分岐点Aにおける案内表示板の満空は、緑とグレーで表示していた。このような表示色のズレによってお客様が直観的に分かりづらくなっており、清掃員が案内する際にも支障をきたしていたため、案内表示板の満空も、赤と青での表示に統一した（図2）。また、空き個室トイレ数が一目で分かる表示もブリンクで表示するように改造した（図2）。

4-2. 利用状況板の設置

トイレ待ち行列の始点となる分岐点Bに、空き個室トイレ数が一目で分かる案内設備を設置した（図2）。満空表示色は、赤青で統一している。



図2：対策実施内容

5. 対策結果

上記の対策を行うことで、お客様がスムーズに使用できるトイレ空間を創造することができた。

5-1. 個室トイレの利用率

対策実施日（2015年8月5日）の前後半年間の個室トイレの利用ログを収集し、混雑日の利用率の変化を分析した（図3）。使用されていなかった奥の個室トイレが使用されるようになったことが分かる。また、清掃員ヒアリングからも、奥の個室トイレが空いているのにも関わらず、お客様の待ち行列ができることはなくなったと分かった。



図3：対策前後の個室トイレの利用率の変化

5-2. お客様の声

対策実施後、「お客様の声」においても、案内が分かりやすいというお褒めの声を多くいただいた（表2）。文字と数字による個室トイレ案内設備だけではなく、全ての設備の満空表示色を統一することで、お客様が個室トイレの満空案内を理解しやすくなったことが分かる。

表2：海老名SA（下り線）における案内のお褒め一覧

受付日時	お問合せ内容
2015年8月18日	トイレも清潔でどこが空いているか分かりやすかった！！
2016年2月1日	トイレの赤青でわかりやすい。年配には便利です。
2016年2月26日	とてもきれいできくにトイレはとてもよかったです。またトイレの空きがわかるのがとても良かったです。
2016年3月28日	赤と青のランプで今そのトイレがあいているかどうかははっきりさせている点は本当にすばらしくて、他のSAもまねするべきだと思いました。
2016年4月5日	トイレは広くてよかったです。「空」「使用済み」とか教えてくれるのも。

6. 今後の展開

以上より、文字と数字での個室トイレ案内設備は、個室トイレを有効に活用するにあたり非常に有効であることが分かった。現在、平面図を用いた個室トイレ案内設備が主流となっているが、平面図を理解するのは難しく、個室トイレ待ち行列の発生につながる可能性がある。回遊型の平面プランではなく、海老名SA（下り線）のような分岐型の平面プランのトイレの場合、案内表示板でお客様に知らせなければならないのは、「どこの個室トイレが空いているか」ではなく、「どちらに行けば個室トイレが空いているか」である。そして、個室トイレに設置されている満空ランプが赤と青で表示しているにもかかわらず、現在主流の案内表示板は緑とグレーで満空を表示しており、お客様が直観的に分からない状態である。このような問題等を積極的に情報発信し、水平展開を行っていく必要があると考える。

7. おわりに

本論文では、海老名SA（下り線）厚木側女性トイレにおける、トイレ混雑対策内容の報告及び評価を行った。今後も、お客様がスムーズに利用できるように、現状の課題を把握し、提案、対策実施、改善のサイクルを回していきたい。



新法人会員紹介

あなたもよくなれ わたしもよくなれ みんなよくなれ

株式会社 Deto

松瀬 進哉

本年度9月より、日本トイレ協会 法人会員として入会いたしました「株式会社Deto」です。よろしくお願いたします。

弊社の概要や事業をご紹介します。

■会社概要

会社名	株式会社Deto
所在地	〒500-8844 岐阜県岐阜市吉野町6-14 三井生命岐阜駅前ビル7階
設立	1965年（昭和40年）
資本金	2,515万円
従業員	39人
代表取締役社長	恩田 多賀雄
主な事業内容	・水回り設備機器及び付属部品の設計及び製造 ・水回り設備機器等の設置工事



■経営理念

「あなたもよくなれ わたしもよくなれ みんなよくなれ」という思いを世の中に広めていく

■事業

「水」をテーマに価値ある暮らしをカタチにします。

当社は、水まわりメーカーとしてDetoブランドとともにOEM・ODM事業を展開してまいりました。

当社のモノづくりは、顧客や市場の表面的要求を満たすだけの製品を作るのではなく、ライフスタイルを観察し、暮らしの中の潜在意識の中で求めている空間や体験を想像し、温水洗浄便座、シャワー、浄水器等の生活を豊かにする商品を創っております。

また、商品の提供だけでなく、OEM・ODM事業の経験と、専門性を高めたグループ会社や、異業種を含めた幅広い分野のスペシャリストのネットワークを活かし、お取引企業様の事業の立ち上げ、新規顧客開拓、プロモーション、施工、メンテナンスまで、幅広く支援しております。

■トイレ関連製品



トイレ産業展2017に出展

昨年に引き続き、一般社団法人日本能率協会主催、当協会他協賛による「トイレ産業展2017」に協会として出展することになりました。また特に最終日の11月17日14時より同会場におきまして当協会高橋会長他が登壇するセミナーも開催されます。是非お出かけください。概要は次の通りです。

- 1 期日 平成29年11月15日(水)～17日(金) 10時～17時
- 2 会場 東京ビックサイト(有明・東京国際展示場) 東6ホール展示場
アクセス
りんかい線 大崎駅より13分 国際展示場下車 徒歩10分
ゆりかもめ 新橋駅より22分 国際展示場正門 徒歩 5分
- 3 展示内容
協会の歴史、組織、活動内容の展示 各研究会の活動状況揭示、協会リーフレット配布
- 4 原則として協会運営委員が常駐し説明の予定

■ トイレ産業展セミナー(当協会担当)

- 11月17日(金) 14時～15時 同会場
テーマ「災害時のトイレはどうする?」～備えあれば憂いなし～
司会進行 当協会会長 高橋志保彦
パネラー 藤沢市企画政策室 杉淵 武
市川市危機管理室
当協会運営委員 新妻 普宣(株総合サービス代表取締役社長)
当協会法人会員 足立 寛一(株エクセルシア代表取締役社長)
当協会運営委員 谷本 亘(日野興業(株)営業企画部部長)

研究会の活動

トイレ文化研究会

- 8月29日(火) そなエリア東京見学(東京・有明)
内容 地震発生後72時間の生存力をつける体験ツアー
9月2日(土) 愛知県尾張旭市総合防災訓練に参加
内容 当協会のPRパネル 携帯トイレ展示
9月24日(日) あいち防災リーダー会 講演(新妻運営委員)
内容 災害時におけるトイレ環境～過去の災害から学ぶ日頃からの備え
場所 愛知県岡崎市 岡崎福祉会館 約70名



岡崎市における防災講演の様子

メンテナンス研究会

- 7月24日(月) TOTO(株)汐留ビル24F 総会
内容 日本トイレ協会の一般社団法人化に伴う運営の変更について
9月11日(月) 川崎市 フジクス(株)見学
内容 排水管洗浄の世界へどうぞ

ノーマライゼーション研究会

- 9月21日(木) 東洋大学白山キャンパス
内容 パネルディスカッション 性的多様性とトイレ～ではどんな? トイレへの新しい視点

運営委員会経過（2017年9月～11月）

■ 第5回運営委員会（9月4日<月>）17時30分～20時05分（株）レンタルのニッケン 前回議事録確認

- 議題 (1) 国際交流について
(2) トイレ産業展について
(3) 災害トイレ関連アンケートについて
(4) グッドトイレ推進運動について
(5) グッドトイレ登録商標について
(6) 第33回全国トイレシンポジウムについて
(7) 各研究会報告
(8) 各部会委員会報告

■ 第6回運営委員会（10月2日<月>）17時30分～19時30分（株）レンタルのニッケン 前回議事録確認

- 議題(1)第33回全国トイレシンポジウムについて
(2) トイレ産業展について
(3) 災害トイレアンケートについて
(4) 横浜市からの公衆トイレ調査委託に関する説明と報告
(5) 国際交流について
(6) 各研究会報告
(7) 各部会委員会報告

編集後記

日本列島が台風21号により、各地で被害が出ています。被害にあわれた方にお見舞い申し上げます。また、衆議院選挙も終わり日本はようになって行くのやら気にかかっております。今回の協会ニュースはその日本のトイレがグッドトイレ推進運動でさらに使いやすく、安全な、ものになることが期待されます。グッドトイレのシンボルマークが決まり、パブリックトイレにおいて、そのマークが当たり前のごとく、目につく光景を想像しています。皆様にお役に立つ情報としてパブリックトイレをよりよく、使いやすくするため「乳幼児連れ対応トイレについて」「海老名SA（下り線）におけるトイレ混雑緩和対策」の2つの取り組みをご紹介します。最後に全国トイレシンポジウムのプログラムも決まり、さらには、その前に開催されますトイレ産業展への出展など協会の活動を楽しみにして下さい。（運営委員 木内 雄二）

一般社団法人 日本トイレ協会

〒112-0003

JAPAN TOILET ASSOCIATION

東京都文京区春日1-5-3 春日タウンホーム1F～A

URL:<http://www.toilet-kyoukai.jp>

Tel 03-5884-6123

e-mail:jta-jimukyoku@toilet-kyoukai.jp

